

## 業績目録

### I. 著書（共著・編纂書を含む）

- 櫻井良樹『辛亥革命と日本政治の変動』岩波書店、2009年12月、A5判・385頁
- 三谷博・並木頼寿・月脚達彦編著『大人のための近現代史』東京大学出版会、2009年10月  
（「24 日中の軍備拡張と世界政治」川島真と共著、227～238頁、「25 日清戦争後の東アジア世界」川島真・月脚達彦と共著、256～268頁、「コメント 脱亜論と大東合邦論」238～239頁、「コメント 日清開戦直前の世論と政局」251～252頁）
- 土屋礼子編著『近代日本メディア人物誌』ミネルヴァ書房、2009年5月（第1部第11章「秋山定輔」91～98頁）。
- W.F.Vande Walle ed. "Japan and Belgium Four Centuries of Exchange" The Commissioners-General of the Belgian Government at the Universal Exposition of Aichi 2005, Japan, 2005. A4判、402頁 (Prewar Economic and Trade Relations. pp.112-115 Belgium's contribution to the development of the glass industry in Japan. pp.165 The visit of Tokugawa Akitake to Belgium. pp.166-169 Japan and Belgium during the First World War. pp.226-233 Relations between Japan and Belgium during the 1930s. pp.260-265 を執筆)
- 櫻井良樹『帝都東京の近代政治史』日本経済評論社、2003年9月、A5判・434頁
- 大西比呂志編（共著者：吉良芳恵・季武也・櫻井良樹・加藤聖文・黒川徳男・中島康比古・大西比呂志）『伊沢多喜男と近代日本』芙蓉書房出版、2003年6月（「伊沢多喜男と東京市政」73～109頁）
- 櫻井良樹『宮本武蔵の読まれ方』吉川弘文館、2003年4月、B6判・226頁
- 大西比呂志・梅田定宏編（共著者：大西比呂志・梅田定宏・鈴木勇一郎・石居人也・松本洋幸・中島康比古・櫻井良樹・黒川徳男・大岡聡）『「大東京」空間の政治史』日本経済評論社、2002年11月（「1920年代東京市における地域政治構造の変化」177～216頁）
- 黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹編著『国際環境のなかの近代日本』芙蓉書房出版、2001年10月、A5判・408頁（「辛亥革命時における日本陸軍の北清・満州出兵計画——北京議定書の拘束——」167～198頁）（共著者：藤村道生・大島明子・高世信晃・斎藤聖二・上野隆生・櫻井良樹・小林道彦・黒沢文貴・飯田真理子・山本尚志・剣持久木・鍋谷郁太郎）
- 長谷川雄一編（櫻井良樹他6名著）『大正期日本のアメリカ認識』慶應大学出版会、2001年5月、B5判・304頁（「加藤高明と英米中三国関係」79～121頁）（共著者：庄司潤一郎・戸部良一・櫻井良樹・賀川真理・杉山肇・伊藤信哉・五味俊樹・長谷川雄一）
- 水野治太郎・櫻井良樹・長谷川教佐編『「宮本武蔵」は生きつづけるか』文真堂、2001年4月、A5判 350頁（「宮本武蔵の書かれ方と読まれ方——歴史的考察——」1～48頁）（共著者：水野治太郎・櫻井良樹・坂本比奈子・長谷川教佐・三瀧正道・竹原茂・JDスウェイン）

内海三八郎著・千島英一・櫻井良樹編『ヴェトナム独立運動家潘佩珠伝——日本・中国を  
駆け抜けた革命家の生涯——』芙蓉書房、1999年3月、A5判330頁（「解説」319  
～330頁）

櫻井良樹編著『地域政治と近代日本——関東各府県における歴史的展開——』（首都研史  
叢書1）日本経済評論社、1998年11月、A5判331頁（「はじめに」1～13頁、「日  
露戦争前後における東京の政治状況」99～132頁）

櫻井良樹『大正政治史の出発—立憲同志会の成立とその周辺—』山川出版社、1997年2月、  
A5判368頁

磯見辰典・黒沢文貴・櫻井良樹『日本・ベルギー関係史』白水社、1989年9月、B6判・  
448頁（担当箇所はp.78～85、p.146～172、p.199～299、p.356～385）

## II. 史料集

尚友倶楽部・櫻井良樹編『田健治郎日記2』芙蓉書房出版、2009年8月、A5判・  
512頁

宇都宮太郎関係資料研究会編（吉良芳恵・斎藤聖二・櫻井良樹責任編集）『日本陸軍とアジ  
ア政策 陸軍大将宇都宮太郎日記』A5判・全3巻、岩波書店、2007年（解題「大  
正時代初期の宇都宮太郎——参謀本部第二部長・師団長時代——」第2巻1～59  
頁）

波多野澄雄・黒沢文貴責任編集＋波多野勝・櫻井良樹・小林和幸編『侍従武官長奈良武次  
日記・回顧録』柏書房、2000年11月、A5判・全4巻

伊沢多喜男文書研究会（大西比呂志・吉良芳恵・広瀬順皓・櫻井良樹・季武嘉也・中島康  
比古・加藤聖文・黒川徳男）編『伊沢多喜男関係文書』芙蓉書房出版、2000年11  
月、A5判・726頁

尚友倶楽部・櫻井良樹編『阪谷芳郎東京市長日記』芙蓉書房出版、2000年3月、A5判・  
700頁（「大正初期の東京市政と阪谷芳郎」589～662頁）

波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹編『海軍の外交官竹下勇』芙蓉書房出版、1998  
年1月、A5判・620頁（解題第4章74～93頁）

歴史学研究会（宮地正人・田崎公司・櫻井良樹・大門正克）編『日本史史料（4）近代』  
岩波書店、1997年7月、A5判・418頁（第3章、217～312頁）

尚友倶楽部・広瀬順皓・櫻井良樹編『伊集院彦吉関係文書第2巻〈駐伊大使期〉』芙蓉書房  
出版、1997年5月、A5判・564頁

尚友倶楽部・広瀬順皓・櫻井良樹編『伊集院彦吉関係文書第1巻〈辛亥革命期〉』芙蓉書房  
出版、1996年12月、A5判・351頁（内解題9～53頁）

井口省吾文書研究会（波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・小林道彦・白石仁章・大島明子・  
櫻井良樹）編『日露戦争と井口省吾』原書房、1994年10月、A5判・524頁

内田良平文書研究会（波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹）編『内田良平関係文書』  
芙蓉書房、1994年6月・10月、A4判・全12巻

内田良平文書研究会（波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹）編『黒龍会関係資料集』  
柏書房、1992年2月、A4判・全11巻

櫻井良樹『立憲同志会資料集』柏書房、1991年2月、A5判・全4巻

長岡外史文書研究会（波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹）編『長岡外史関係文書・書簡書類篇』吉川弘文館、1989年10月

長岡外史文書研究顕彰会（波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹）編『長岡外史関係文書・回顧録篇』吉川弘文館、1989年5月

### Ⅲ. 学術論文

「日本・ベルギー関係史の一断面：第一次世界大戦期における資料」『麗澤大学紀要』89巻、2009年12月、169～178頁

「後藤新平と宇都宮太郎」『後藤新平の会会報』4・5号60～69頁、2009年3月

「近代日中関係の担い手に関する研究（中清派遣隊）——漢口駐屯の日本陸軍派遣隊と国際政治——」『（麗澤大学）経済社会総合研究センターWorking Paper』No29、2008年12月25日、1～41頁

「可睡斎護国塔と日置黙仙——ある仏教者の日露戦後における慰霊運動——」（東アジア近代史学会編『日露戦争と東アジア世界』ゆまに書房、2008年1月）421～434頁

「日本におけるベルギー人の諸活動（1876－1938）」『麗澤大学紀要』83巻、2006年12月、279～298頁

「辛亥革命と宇都宮太郎」『近きに在りて』47号、2005年8月、5～10頁

「ロンドン駐劄公使時代の加藤高明——書簡史料を中心に——」『九州史学』141号、2005年6月、59～75頁

「辛亥革命前後の清国駐屯軍——1901～1914——」『東アジア近代史』8号、28～59頁、2005年3月

「第二次大隈内閣期における外交政策の諸相」『国際政治』139号〈日本外交の国際認識と秩序構想〉、2004年11月、60～73頁

「戦前期東京市における市政執行部と市会」『日本史研究』469号、2001年9月、35～60頁

「明治末期における佐原の政治状況——『実業新報』記事を中心に——」『佐原の歴史』1号、2001年3月、30～47頁

「選挙分析から見た昭和初期における野田市域と東葛飾郡」『野田市史研究』12号、2001年3月、123～152頁

「東京市における『予選体制』について——原田敬一著『日本近代都市史研究』書評をかねて——」『ヒストリア』164号、1999年4月、71～86頁

「日中提携と『国民的新党』の創設——長島隆二の場合——」『日本外交におけるアジア主義』〈年報政治学1998〉岩波書店、1999年1月、91～108頁

「公民会の誕生と一八九〇年代における東京市の選挙」『日本歴史』609号、1999年2月、1～19頁

「菊池謙譲と朝鮮近代——韓国併合まで——」（〈明治人による近代朝鮮論影印叢書〉第7巻・菊池謙譲『大院君伝』ぺりかん社、1998年3月）

「日露戦後における島田三郎の政治軌跡」（横浜近代史研究会・横浜開港史料館編『横浜の近代—都市の形成と展開—』日本経済評論社、1997年3月）、209～234頁

「大正後期における川間村の村風作興構想—染谷亮作村長時代を中心に—」『野田市史研

- 究』7号、1996年3月
- 「故広池千英氏の旧蔵にかかる社会・労働問題関係資料について—整理作業報告—」『麗澤学際ジャーナル』4巻1号、1996年3月
- 「日露戦後における非政友勢力の政界再編論」『麗澤学際ジャーナル』3巻2号、1995年10月
- 「外交問題から見た立憲同志会の党内抗争—第一次山本内閣期を中心にして—」『日本歴史』564号、1995年5月、69～85頁
- ” From Meiji Politics to Taisho Politics: the Foundation of the Rikken-Doshikai by Katsura Taro,” *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*, Vol. 2-2, 1994-9, pp. 33-51
- 「立憲同志会の創設と辛亥革命後の対中国政策」『史学雑誌』103編2号、1994年2月、1～37頁
- 「社会政策と桂新党—明治末期における蔵原惟郭の政治軌跡を中心にして—」『麗澤学際ジャーナル』1巻2号、1993年9月、41～54頁
- 「辛亥革命と桂新党—明治政治から大正政治へ—」（藤村道生編『日本近代史の再検討』84～109頁、南窓社、1993年3月）（共著者：藤村道生・上野隆生・大島明子・櫻井良樹・伊藤正徳・斎藤聖二・黒沢文貴）
- 「日韓合邦建議と日本政府の対応」『麗澤大学紀要』55巻、1992年12月、267～292頁
- 「宗秩寮の創設と日露戦後の貴族院」『日本史研究』347号、1991年7月、50～65頁
- 「日露戦後の蔵原惟郭と社会教育会」『麗澤大学論叢』2号、1991年1月、209～230頁
- 「秋山定輔と桂新党（立憲同志会）—「政界革新運動」の観点から—」『麗澤大学紀要』50巻、1990年7月、198～216頁
- 「第二次桂内閣の市制改正について」『日本歴史』487号、1988年12月、66～80頁
- 「明治十年代後半における帝政派の政治活動の一考察—明倫会と大分県史学会—」『大分県地方史』129号、1988年3月、1～16頁
- 「日露戦後における家族制度問題—新たな『家』の創造—」（阿南成一編『問われる家族倫理』広池学園出版部、1987年6月）
- 「又新会の成立と崩壊—付、第26帝国議会又新会代議士会会議録—」『紀尾井史学』6号、1986年12月
- 「日露戦後における都市経営問題の性格について」『上智史学』31号、1986年11月、77～95頁
- 「東京市街電車の市有化をめぐる政治過程—桂園時代の一側面—」『史学雑誌』95編7号、1986年7月、63～86頁
- 「明治末期における電燈業政策の政治的背景—東京市内電燈業を題材として—」『日本史研究』282号、1986年2月、36～60頁
- 「後藤新平—『国民的』官僚政治家—」（『日本の近代化と精神的伝統』広池学園出版部、1985年11月）
- 「日露戦時における民衆運動の一端—「国民の元気」と行動の自由、祝捷行列を題材として—」『日本歴史』436号、1984年9月、71～81頁

#### IV. 史料・資料紹介論文

- 「鈴木貫太郎日記（昭和二二・二三年）について」『野田市史研究』19号、2008年3月、79～112頁
- 「鈴木貫太郎日記（昭和二一年）について」『野田市史研究』16号、2005年3月、3～43頁
- 「佐原市内の戦争関係碑を見る－現況紹介（下）－」『佐原の歴史』5号、2005年3月、89～106頁
- 「佐原市内の戦争関係碑を見る－現況紹介（上）－」『佐原の歴史』4号、2004年3月、94～116頁
- 「公民団体に關する二三の史料」『麗澤大学紀要』75号、2002年12月、59～72頁
- 「戦前期群馬県・埼玉県における県議会議員総選挙の結果について」『麗澤大学論叢』11号、2000年2月、139～165頁
- 「戦前期千葉県・神奈川県における県議会議員総選挙の結果について」『麗澤大学論叢』10号、1999年2月、113～143頁
- 「制限選挙期における東京市議会議員総選挙の結果について」『麗澤大学論叢』9号、1998年2月
- 「戦前期茨城県・栃木県における県議会議員総選挙の結果について」『麗澤大学論叢』8号、1997年2月
- 「戦前期東京府における府議会議員総選挙の結果について」『麗澤大学論叢』7号、1996年2月
- 「陸軍大学校教頭時代の井口省吾『教頭業務日誌』－日清戦後における陸大教育－」『麗澤学際ジャーナル』3巻1号、1995年3月、113～142頁
- 日本政治外交史研究会（池井優・波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹）「《井口省吾文書》及び解題－日露戦争期の書簡と日記を中心として－」『法学研究』62巻1・2号、1989年1月・2月
- 日本政治外交史研究会（池井優・波多野勝・黒沢文貴・斎藤聖二・櫻井良樹・篠原初江・木村昌人）編「《明石元二郎文書》及び解題－主要書簡を中心にして－」『法学研究』58巻9号、1985年9月
- 「黒岩周六日記＜大正三年四月～四年四月＞」『紀尾井史学』4号、1984年12月、33～46頁

#### V. その他（分量のあるもの）

- 「インターネットで歴史研究」『日本歴史』740号、2010年1月、25～30頁
- 「クロス留学と多言語修得プログラム」『大学時報』326号78～81頁、2009年5月
- 「大正時代初期の宇都宮太郎——参謀本部第二部長・師団長時代——」（吉良芳恵『宇都宮関係資料からみた東アジアと近代日本』平成15～18年度科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果報告書）75～109頁、2007年3月
- 「敬語の思想史をどう見るか？」（滝浦真人『敬語の語用論研究』平成16～18年度科学研究費補助金（基盤研究C2）研究成果報告書）40～48頁、2007年3月
- 「大正時代初期の宇都宮太郎——参謀本部第二部長として——」『麗澤大学』経済社会総

- 合研究センターWorking Paper』No23、2007年2月
- 「可睡斎護国塔と日置黙仙一日露戦後における仏教者の慰霊運動—」（『日本学術振興会科学研究費（基盤A）プロジェクト「近代日本における戦争記念碑と戦没者慰霊についての地域社会的研究」報告書』121～126頁、中京大学、2006年3月）
- 「戦前期における日本とベルギーの経済関係概観」『日本・ベルギー協会会報』69号、2005年11月、11～16頁
- 「個人によるWWWにおける史料公開体験」『歴史評論』694号、1999年10月、13～21頁
- 「戦前二大政党形成期における府県政治状況変化の研究」（平成8～10年度科学研究費基盤研究（C）（2）研究成果報告書）
- 「近代日本史料に関する情報機関についての予備的研究・第8回研究会報告」（平成9年度科学研究費基盤研究（B）（1）研究成果報告書）
- 「台北市内図書館めぐり」『麗澤大学論叢』9号、1998年2月
- 「日本人の中国観——辛亥革命期を中心にして——」（1997年12月19日講演会記録）『麗澤大学国際研究センター「アジアの経済と文化」研究公開研究会シリーズ』No. 4、1998年2月

#### VI. その他（書評・研究紹介）

- 「千葉功『旧外交の形成』」『歴史学研究』862号、2010年1月、48～51頁
- 「小林道彦『桂太郎』」『軍事史学』44巻1号、2008年6月、131～137頁
- 「源川真希『東京市政』」『歴史評論』六九四号、2008年2月、90～94頁
- 「奈良岡聡智『加藤高明と政党政治』」『日本史研究』544号、2007年12月、72～77頁
- 「橋本哲哉編『近代日本の地方都市』」『社会経済史学』73巻1号、2007年5月、101～103頁
- 「大谷正『兵士と軍夫の日清戦争』」『東アジア近代史』10号、2007年3月、170～171頁
- 「山口輝臣『明治神宮の出現』」『日本歴史』702号、2006年11月、120～123頁
- 「宇野俊一『桂太郎』」『歴史評論』679号、2006年11月、104～105頁
- 「大西比呂志『横浜市政史の研究』」『日本歴史』683号、2005年4月、119～121頁
- 「速水融・小嶋美代子『大正デモグラフィー』」『比較文明研究』10号、2005年3月、151～154頁
- 「京都市政史編さん委員会編『京都市政史 第4巻 資料 市政の形成』紹介」『史学雑誌』112編8号、118～120頁、2003年8月
- 「シンポジウム『二〇世紀初頭の東アジアと日本』を聞いて」『東アジア近代史』7号、1～4頁、2004年3月
- 「源川真希『近現代日本の地域政治構造』書評」『日本歴史』659号、2003年4月、121～124頁
- 「鬼頭宏『文明としての江戸システム』書評」『比較文明研究』8号、2003年3月、115～121頁
- 「斎藤聖二『日独戦争』書評」『東アジア近代史』6号、2002年3月、101～103頁
- 「川田稔編『浜口雄幸集』書評」『東アジア近代史』5号、2001年3月、103～105頁

- 「上野・栗田報告へのコメント」『東アジア近代史』5号、2001年3月、59～61頁
- 「伊藤之雄『立憲国家の確立と伊藤博文』書評」『史林』83巻6号、2000年11月、160～165頁
- 「黒沢文貴『大戦間期の日本陸軍』書評」『上智史学』45号、2000年11月、151～157頁
- 「岡田洋司『大正デモクラシー下の地域振興』書評」『日本歴史』629号、2000年10月、116～118頁
- 「季武嘉也『大正期の政治構造』書評」『日本歴史』617号、1999年10月、111～113頁
- 「松尾尊允『民主主義と帝国主義』書評」『日本歴史』613号、1999年6月、124～126頁
- 「『政友特報』書評」『群馬文化』253号、1998年1月
- 「山本四郎編『日本近代国家の形成と展開』書評」『日本歴史』593号、1997年10月
- 「1996年の回顧と展望日本・近現代3」『史学雑誌』106編5号、1997年5月
- 「小路田泰直著『日本近代都市史研究序説』書評」『史学雑誌』101編6号、1992年6月
- 「時任英人著『犬養毅』書評」『国際政治』99号、1992年3月
- 「藤村道生著『日本現代史』書評」『上智史学』27号、1982年11月

## VII. その他（その他）

- 「《史料の窓》政党内閣期における代議士の地盤」『法律時報』80巻10号（1000号）、扉頁、2008年9月
- 「麗澤大学外国語学部からの報告」『東京外国語大学特色G P 「『教養日本力』の創造に向けて報告書』』15～20・69～74頁、2008年5月
- 「“東アジア”再考——近現代史からの問い——：参加記」『東アジア近代史学会会報』23号1～3頁、2007年9月
- 「東京市政要綱提出の意味」『後藤新平・「大風呂敷」の実相』（『都市問題』後藤新平生誕150周年記念8月号特別増刊）20～21頁、2007年8月
- 「『二六新報』の創始者・秋山定輔という人」『言葉の戦士 涙香と定輔』89～91頁、日本新聞博物館企画展図録、2007年2月
- 「《史料の窓》吉田茂への鈴木貫太郎の教訓」『法律時報』79巻2号（979号）、扉頁、2007年2月
- 「《史料の窓》元首相・鈴木貫太郎の戦後の活動」『法律時報』79巻1号（978号）、扉頁、2007年1月
- 「《史料の窓》若き松井石根と辛亥革命」『法律時報』78巻6号（970号）、扉頁、2006年6月
- 「《史料の窓》宇都宮太郎・宇都宮徳馬父子と中国問題」『法律時報』78巻5号（969号）、扉頁、2006年5月
- 「『国際共通語としての英語教育』プロジェクトに至るまで」『麗澤教育』12号、2006年3月、110～113頁
- 「妥協の提携、桂園体制」・「戦後不況と産業の動向」・「日米対立と辛亥革命」・「大逆事件」（宮地正人他監修『明治時代館』512～513・514～515・516～517・518～519頁、小学館、2005年11月）

- 「教養としての歴史学」『麗澤教育』11号、2005年3月、36～38頁
- 「帝国主義の時代と花開く文化」『別冊太陽・開国150年明治かがやく』2005年3月、92～97頁
- 「《史料の窓》明治中頃における加藤高明の政党内閣観」『法律時報』77巻1号（950号）、扉頁、2005年1月
- 「立憲政友会の成立」・「大正政変・立憲同志会」（広瀬順皓他編『史料で透視する近代日本』95～99・111～115頁、ゆまに書房、2004年1月）
- 「《史料の窓》衆議院解散のもう一つの理由」『法律時報』75巻7号（932号）、扉頁、2003年7月
- 「《史料の窓》原敬首相の言い訳」『法律時報』75巻6号（931号）、扉頁、2003年6月
- 「《史料の窓》原敬日記の魅力」『法律時報』75巻5号（930号）、扉頁、2003年5月
- 「宮本武蔵の文化論講義・その後」『本郷』48号、22～24頁、2003年11月
- 「〔報告要旨〕1910・20年代における東京市の政治構造の変化」『日本史研究』491号、102～104頁、2003年7月
- 「〔コメント〕芝村篤樹『日本近代都市の成立』」『日本史研究』490号、108～109頁、2003年6月
- 「阪谷芳直さんと『東京市長阪谷芳郎』」（阪谷綾子編『不羈の人—追悼・阪谷芳直—』阪谷直人、2003年5月）290～292頁
- 「戦前・戦後の武蔵 平成の武蔵」『歴史読本』48巻3号、76～83頁、2003年3月
- 「宮本武蔵の書かれ方と読まれ方・再説」『比文研ニューズレター』8号、11～12頁、2002年4月
- 「1920年代における東京市政構造の変化」『首都圏形成史研究会報』12号、2000年10月、29～32頁
- 「阪谷芳郎東京市長日記について——大正初期の東京市政と阪谷芳郎——」『首都圏形成史研究会報』11号、2000年6月、15～17頁
- 「シンポジウム雑感」『首都圏形成史研究会報』9号、1999年4月、43～44頁
- 「日露戦争前後における東京の政治状況」『首都圏形成史研究会報』2号、1995年6月
- 「都市下層民の暮らし」『見る・読む・わかる日本の歴史4近代・現代』1993年1月、朝日新聞社、58～59頁
- 「江戸幕府研究の基本的データ集—美和信夫著『江戸幕府職制の基礎的研究』—」『歴史研究』366号、1991年11月
- 編集委員（美和信夫著『江戸幕府職制の基礎的研究』広池学園出版部、1991年7月）
- 池井優・波多野勝・黒沢文貴編『浜口雑幸日記・随感録』みすず書房、1991年3月の原本照合・人名確定に協力
- 「戦術としての〈特攻〉」『週刊朝日百科・日本の歴史』122号、1988年8月

## VIII. その他（辞書・事典）

- 「広池千英」（伊藤隆・季武嘉也編『近代日本人物史料事典2』吉川弘文館、2005年12月）
- 「秋山定輔・伊集院彦吉・井上敬次郎・大竹貫一・鹿島秀麿・蔵原惟郭・黒岩周六・近藤栄蔵・坂口仁一郎・阪谷芳郎・長島隆二」（伊藤隆・季武嘉也編『近代日本人物史

- 料事典』吉川弘文館、2004年7月)
- 「櫻井良樹『大正政治史の出発』・「日露戦争前後における東京の政治状況」『日本史文献事典』弘文堂、2003年12月
- 「韓国統監府・義兵運動・朝鮮総督府・日韓協約・日韓併合」『日本史事典』朝倉書店、2001年1月
- 「桂園時代・大正政変と護憲運動」『日本近現代史事典』東京堂出版、1999年8月、152～153・210～212頁
- 「営業税反対運動・大浦兼武・桂太郎内閣・桂園時代・憲政擁護運動・東京市政疑獄・東京市電値上げ反対運動・都市社会主義・中野武宮・名古屋電車焼き打ち事件・松島遊郭疑獄・立憲同志会」『角川新版日本史辞典』角川書店、1996年11月
- 「早速整爾・降旗元太郎」『日本史大事典』第5巻、平凡社、1993年11月
- 「藤村道生」『現代日本朝日人物事典』朝日新聞社、1990年12月
- 「一万田尚登、伊井蓉蜂、生花、池田勇人、インド、院展、伊沢修二、石橋湛山、一世一元の制、板垣征四郎、伊藤博文、伊東祐亨、岩倉具視、岩崎弥之助」『Dictionnaire Historique du Japon Fascicule IX : Letter I』紀伊国屋書店、1983年

#### IX. 報告（研究会など）

- 「支那駐屯軍をめぐる国際関係」2009年11月28日、第47回白山史学会大会講演（東洋大学）
- 「『外国人関係警察取締処分雑件』中の外事警察関係書類について」2009年9月15日、横浜外国人社会研究会（横浜開港資料館）
- 「第一次世界大戦期における日本・ベルギー関係（続）」2008年12月20日、横浜外国人社会研究会（横浜開港資料館）
- 「漢口と宇都宮太郎——金子新太郎・中支那派遣隊——」2008年12月14日、宇都宮太郎関係資料研究会（日本女子大学）
- 「漢口駐屯の日本陸軍派遣隊と国際政治」2008年10月11日、東アジア近代史学会例会（専修大学）
- 「宇都宮太郎と孫文」2008年1月27日、宇都宮太郎関係資料研究会（日本女子大学）
- 「第一次世界大戦期の日本における敵対国人の活動——白独関係——」2007年11月3日、横浜外国人社会研究会（横浜開港資料館）
- 「尾崎行雄研究の現在」2007年9月24日、相模原市立博物館研究報告会・首都圏形成史研究会（相模原市立博物館）
- 「日本陸軍参謀本部と中国——宇都宮太郎関係資料から——」2007年9月11日、中国北京社会科学研究院日本研究所研究会（中国社会科学研究院日本研究所）
- 「Belgian's Activities in Japan (1876-1942)」2006年8月29日、Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) ; Joint Project, Japan-Belgium Research Cooperative Program, “An Integrated Comparative Study of Japan and Belgium from the Perspective of Regional Studies”, University of Leuven
- 「敬語の思想史をどう見るか？」2006年2月7日、科研費補助金によるワークショップ「敬語とポライトネス」（麗澤大学）

- 「Japan and Belgium (2005) と『日本・ベルギー関係史』(1989) で書いたこと」2005年10月29日、日本学術振興会二国間交流事業「日本・ベルギー間の地域比較研究の総合化」第一回研究集会(文化女子大学)
- 「Economic Relations between Japan and Belgium」2005年10月28日、ベルギー大使館主催・上智大学史学会後援“Japan and Belgium:Four Centuries of Exchange”会議、(ホテル・ニューオオタニ)
- 「宇都宮太郎と明治末期の内政・外交」2006年2月26日、シンポジウム「宇都宮太郎関係資料から見た近代日本と東アジア」(日本女子大学)
- 「清国駐屯軍と北清国際社会——1901～1915——」2005年1月22日、東アジア近代史学会例会(早稲田大学)
- 「ロンドン駐劄時代の加藤高明——書簡史料を中心に——」2004年10月16日、九州史学会
- 「鈴木貫太郎記念館所蔵の吉田茂書簡について他」2004年10月2日、吉田茂研究会(國學院大學)
- 「1930年代初頭における東京市政の一断面—政党対立の激化と市政刷新運動—」2003年6月1日、国史学会(國學院大學)
- 「日露戦争研究に関する史料状況」日露戦争百周年記念シンポジウム準備研究会、2002年5月11日、早稲田大学アジア太平洋研究センター
- 「1920年代における東京市政構造の変化」首都圏形成史研究会シンポジウム・都市と官僚制、2000年3月25日、国学院大学
- 「1910・1920年代における東京市の政治構造の変化——市政運営構造と地域政治構造——」大阪歴史学会・日本史研究会近代史部会例会、2000年1月22日、クレオ大阪
- 「戦前ベトナムの近代と日本留学運動——潘佩珠の場合——」麗澤大学国際研究センター、1999年12月10日
- 「阪谷芳郎『東京市長日記』について——大正初期の東京市政と阪谷芳郎——」首都圏形成史研究会例会、1999年11月6日、すみだ郷土資料館
- 「コメント：芝村篤樹『日本近代都市の成立』を読んで」大阪歴史科学協議会例会、1999年7月10日、大阪市立社会福祉センター
- 「『加藤外交』再考：1909—1924」東アジア近代史学会例会、1999年5月29日、早稲田大学アジア太平洋センター
- 「加藤高明の対米観—原敬との対比において—」慶応義塾大学出版会、1998年8月8日
- 「近代日本史料に関する情報機関についての予備的研究・第8回研究会報告」1998年4月3日政策研究大学院大学
- 「日本人の中国観——辛亥革命期を中心にして——」1997年12月19日、麗澤大学国際研究センター(同会議室)
- 「日露戦後における島田三郎の政治軌跡」1996年7月23日、横浜近代史研究会(横浜開港資料館)
- 「日露戦争前後における東京の政治状況」(シンポジウム「日露戦争前後における首都圏の政治状況」東京担当報告)1995年4月1日、首都圏形成史研究会(国学院大学)

「桂新党・田中新党・近衛新党—長島隆二の生涯—」1995年2月25日、横浜近代史研究会（横浜開港資料館）

「桂新党（立憲同志会）の外交政策—辛亥革命後の対中政策をめぐって—」1993年9月、日本国際政治学会・日本外交史分科会報告（早稲田大学）

「内田良平文書について」1992年5月、日本国際政治学会1992年度春季大会（神戸学院大学）

「立憲同志会の成立をめぐって」1990年11月、第40回上智大学史学会大会報告

「日露戦後における都市経営問題の性格について」1986年5月、東京都立大学都市研究センター報告

「日露戦後における都市経営問題の性格について」1985年12月、第35回上智大学史学会大会報告

「日露戦時における民衆運動の一端」1983年11月、第33回上智大学史学会大会報告

## X. その他の報告・講演

大学コンソーシアム柏「地域学リレー講座・地域を学ぼうコース」で「東葛地方唯一の首相 鈴木貫太郎の戦後」2009年9月5日（麗澤大学生涯学習プラザ）

台湾師範大学台湾史研究所主催「台湾史日文史料暨日本近代史研究研修營」で「帝都東京から見た日本近代の社会と政治」を担当（6時間）、2009年8月27日・28日（台湾師範大学）

特色GP「教養日本力」高度化推進プログラム・シンポジウム『『教養日本力』の創造に向けて』にて「麗澤大学より」2008年3月8日（東京外国語大学）

野田市史集中講座「終戦後の鈴木貫太郎」2008年2月24日（野田市役所）

マブチ国際育英財団奨学生の集い「日本の近代社会（明治と大正）」2007年8月10日（マブチ研修会館）

日本新聞博物館企画展「言葉の戦士——萬朝報の黒岩涙香と二六新報の秋山定輔——」で「秋山定輔——新聞人から黒幕へ——」2007年3月10日（日本新聞博物館）

第22回大佛次郎記念館歴史講座「日露戦争は日本をどう変えたか：百周年を終えて」2006年2月25日（横浜市開港記念会館）

麗澤大学文化講演会'05「帝都東京の近代政治史」2005年10月22日（麗澤大学）

野田市立北部公民館『『宮本武蔵』はどう読まれたか——大正・昭和戦前・戦後——』2003年6月13日（野田市立北部公民館）

東葛・生と死を考える会「小説『宮本武蔵』の読まれ方——生きること・死ぬことの意味——」2003年5月31日（麗澤大学）

桐生・山田地区選挙政治講座『『宮本武蔵』はどう読まれたか——大正・昭和戦前・戦後——』2003年2月19日（桐生市文化会館）

朝日カルチャーセンター・横浜「島田三郎と横浜政界」2002年6月20日

佐原市中央公民館主催郷土学習講座・第7回「佐原の近現代——明治末期『実業新報』を中心に——」1999年11月20日（佐原市中央公民館）

朝日カルチャーセンター・横浜「世紀でたどる日本史——20世紀・第二次大戦まで」  
「大正政変と護憲運動」1999年5月19日

「政党政治とヴェルサイユ・ワシントン体制」1999年6月2日  
朝日カルチャーセンター・横浜「世紀でたどる日本史——19世紀後編」

「都市民衆勢力の成長」1999年3月16日  
渋谷区立千駄ヶ谷社会教育館主催シルバーカレッジ

「明治期の東京市政」1998年9月3日

「東京市街鉄道」1998年9月10日

上智大学コミュニティーカレッジ「日本近代史の再検討」

1992年「明治憲法体制下の政党と官僚」「大正デモクラシーの萌芽」  
桂会「晩年の桂太郎—政党組織の意図—」1994年6月11日（霞会館）